

# COM ポートリダイレクター

# 利用ガイド

## ■■ご注意■■

- 本書の内容の全部または一部を無断で転載あるいは複製することは、法令で別段の定めがあるほか、禁じられています。
- 本書で使用されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容および製品仕様について、改良などのため将来予告なく変更することがあります。
- ■本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万一記載漏れや誤り、理解しにくい内容など、お気づきの点がございましたらご連絡くださいますようお願い致します。
- ■本製品を使用された結果によるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、一切のその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

Copyright © 2012 - 2017 LINEEYE CO., LTD. All rights reserved.

# 第 10 版

# ■■目次■■

第	1章はじめに	1
	1-1. 本紙について	1
	1-2. COM ポートリダイレクターについて	1
第	2章 準備	2
	2-1. COM ポートリダイレクターのインストール	2
	2-2. 本機の設定	2
第	3章 COM ポートリダイレクターの起動方法	3
第	4章 仮想 COM ポートの追加と削除	4
-1-	4−1. 仮想 COM ポートの追加方法	4
	4-2. 仮想 COM ポートの削除方法	4
第	5章 本機と仮想 COM ポートの関連付け	5
第	6章 利用条件に合わせた仮想 COM ポートの設定	6
	6-1. 仮想 COM ポートの条件設定	6
	6-2. Settings タブの設定	7
第	7章 Listen モードの利用	8
	7-1. Listen モードとは	8
	7–2. Listen モードの設定	8
第	8章 RFC2217の利用	9
	8-1. RFC2217とは	9
	8-2. RFC2217の設定1	0
第	9章 CPR のバージョンについて1	2

#### 1-1. 本紙について

本紙は Lantronix 社製「COM ポートリダイレクター(Com Port Redirector ( 略語 :CPR))」につ いて説明しています。CPR は Lantronix 社製 LAN デバイス (XPort/WiPort/WiPortNR/xPico) 共 通で利用可能となっており、弊社製品に搭載されている LAN デバイスは下表の通りとなります。

弊社製品型番	Lantronix 社製 LAN デバイス
SI-60	
SI-60F / SI-60F-L	
SI-65	XPort-05
SI-65A / SI-65A-L	]
SI-65FA / SI-65FA-L	
SI-60Wi	WiPort
SI-60X	WiPortNR
SI-60P	VBies
SI-60FP	XFICO

(※型番末尾に '-L' が付くモデルは壁掛け用筐体で、機能は同じとなります)

説明画面等は WiPortを使用しておりますが特に記載がない限り各 LAN デバイスも同様とお考え ください。なお、弊社製品では CPR 機能を全てご利用いただけるとは限りません。また、本紙で は CPR の機能を全て説明しておりませんので詳しくはオンラインヘルプなどをご覧ください。

#### 注意:ご購入された時期によっては付属 CPR のバージョンが異なる場合があります。 バージョンによっては本紙の画面表示、設定項目及び操作方法が異なる場合があります のでご注意ください。

#### 1-2. COM ポートリダイレクターについて

COM ポートリダイレクター (CPR) はネットワーク接続に対応していないシリアル通信アプリケー ションをネットワーク上で使用できるようにするためのユーティリティソフトウェアです。 CPR は、 Windows に仮想 COM ポートを作成し、この仮想 COM ポートに対する通信はネットワークを通じて 本機のシリアルポートへ転送されます。

通常は本機がサーバモードで、CPR をインストールしたパソコン側をクライアントとして、パソコン 側ソフトウェアから COM ポートをオープンする事で接続します。

ほとんどの COM ポートを利用するアプリケーションソフトウェアは、仮想 COM ポートが実際のシ リアルボートと同じに見えるため問題なく動作します。データ送受信に対する時間制限があるよう な一部のアプリケーションではネットワーク経由の通信が実際の COM ポートに対する通信より待 ち時間が長くなり、動作しない可能性があるためアプリケーションソフトウェアで通信タイムアウト 時間を大きくするなどの修正が必要になります。

また、以下の点にご注意ください。

- パソコンのLANポートに対して仮想COMポートを作成する他のソフトウェアと同時に使用することはできません。このようなソフトウェアがすでにインストールされている時はCPRをインストールしないでください。
- 対応 OS は Ver 4.3.0.3 以降 Windows 7/8/2008 Server で、NET Framework4.0 が必要にな ります。ご購入された時期によっては付属 CPR のバージョンが異なる場合がありますので 付属 CD 内 ¥lantronix¥ComPortRedirector の各バージョンフォルダ内にある Release.txt な どをご覧ください。
- CPR Ver4.x.x.x では Visual Basic6 およびそれ以前の MSCOMM に問題があり CPR とは通信出来ません。
- RFC2217 機能を利用する時を除き本機の RTS/CTS フロー制御は本機と接続されたシリア ル機器間で自動的に行われます。(アプリケーション側から RTS/CTS の制御、監視はでき ません。RFC2217 機能については「第8章 RFC2217 の利用」をご覧ください。)

2-1. COM ポートリダイレクターのインストール

CPR のインストールはインストールするパソコンに管理者権限でログインして下記手順で行いま す。なお、旧バージョンの CPR が既にインストールされている場合は先に旧バージョンをアンイン ストールしてください。

- 1. 付属 CD-ROM 内の「¥lantronix¥ComPortRedirector」フォルダの最新「¥Ver4.3.X.X」フォル ダにある Setup ファイル ( 拡張子 .exe) を実行します。 (Windows 2008 Server SP2 x64 では CPR Ver3.4.0.3 の場合 CPR\_x64DL\_4.3.0.3.msi をご利用 ください。)
- 2. インストールウィザードの指示に従ってインストールを進めてください。
- 3. インストール完了後、ウィンドウを閉じてパソコンを再起動します。

#### 2-2. 本機の設定

CPR とともに本機を使用する場合、予め本機(内蔵 Lantronix 社製品)のシリアル通信速度、デー タビット、パリティ、ストップビット、フロー制御の設定を、接続するシリアル機器に合わせて設定 してください。また、本機の IP アドレスは固定に設定される事を推奨します。 (本機の設定方法については取扱説明書などをご覧ください)

なお、アプリケーションが COM ポートに対して設定する値は、本機に設定したシリアル通信速度、 データビット、パリティ、ストップビット、フロー制御に合わせ設定する必要があります。

<本機の設定項目>

<b>公</b>	Serial Settings				
Network					
Server	Channel 1				
Serial Tunnel	Disable Serial Port				
Hostlist					
Channel 1	Port Settings				
Serial Settings	Protocol: RS232 V Flow Control: None V				
Connection Channel 2	Baud Rate: 9600 V Data Bits: 8 V Parity None V Stop Bits: 1 V				
Serial Settings					
Connection	Bask Oustal				
Email	Pack Control				
Trigger 1	Enable Packing				
Trigger 2	Idle Gap Time: 12 msec 🗸 🗸				
Trigger 3	Hale Other Comments of the Commentation of the Comments				
WLAN	Match 2 Byte Sequence: Yes INO Send Frame Immediate: Yes INO				
Configurable Pins	Match Bytes: 0x00 0x00 (Hex) Send Trailing Bytes:  None One Two				
Apply Settings					
	Flush Mode				
	Flush Input Buffer Flush Output Buffer				
Apply Defaults	With Active Connect: O Yes  No With Active Connect: O Yes  No				
	With Passive Connect: O Yes  No With Passive Connect: O Yes  No				
	At Time of Disconnect. ○ Yes ● No At Time of Disconnect. ○ Yes ● No				
	OK				

※ SI-60X はシリアルが 2 ポートあり、RS-232C(1) 側を Channel1 に、RS-232C(2) 側を Channel2 に設定する必要があります。

# 第3章 COM ポートリダイレクターの起動方法

Windows のスタートメニューから「Lantronix」「CPR 4.3」の「CPR Manager」を起動します。 「CPR Manager」ウィンドウが表示されます。なお、初期設定時または設定変更時に起動させるだけで、通常ソフトウェアから使用する際に、常時起動しておく必要はありません。

♦ CPR Manager 4.3.0.3									
<u>F</u> ile <u>C</u> om Port <u>D</u> e	evice <u>T</u> ools <u>H</u> elp								
🏷 Add/Remove 🛛 🔚 Sa	🔯 Add/Remove 🛛 🔲 Save 🖹 Refresh 🔎 Search For Devices 🤤 Exclude								
Com Ports 🛛 Hide 😑 🤇	Com Port List General Tes	sts							
All Com Ports (	Com Port	IP Address	TCP Port	Com Status	Netwo				
⊡ <mark>(</mark> ⊇ Com 3 - 3	🏷 Com 3 (Inaccessible)								
4	•				۴				
Device List				Colla	pse 🔽				
IP Address	# Ports TCP Po Prod	uct	ID	HW Addres:	s				
•					۶.				
Complete!									

CPR の「 🦻 Add/Remove (Add and Remove)」アイコン ( メニューの [Com Port]-[Add and Remove]) をクリックし、仮想 COM ポートの追加 / 削除設定ダイアログ (Com Ports) で新規に設定する COM ポートの追加を行います。

また、既に CPR で登録した不要な COM ポートの削除もこちらから行います。

Com Ports						
Com 1	Com21	Com41	Com61	Com81	📄 Com 101	📄 Com121 🔺
Com2	Com22	Com42	Com62	Com82	📄 Com 102	Com 122
√ Com3	Com23	Com43	Com63	Com83	📄 Com 103	📄 Com 123
🔽 Com4	Com24	Com44	Com64	Com84	📄 Com 104	Com124
Com5	Com25	Com45	Com65	Com85	📄 Com 105	📄 Com 125
📄 Com6	Com26	Com46	Com66	Com86	📄 Com 106	📄 Com 126
Com7	Com27	Com47	Com67	Com87	📄 Com 107	📄 Com127
Com8	Com28	Com48	Com68	Com88	📄 Com 108	📄 Com 128
Com9	Com29	Com49	Com69	Com89	📄 Com 109	📄 Com 129
📄 Com 10	Com 30	Com50	Com70	Com90	📄 Com110	📄 Com 130 🔤
📄 Com 1 1	Com31	Com51	Com71	Com91	📄 Com111	📄 Com 131
📄 Com 12	Com 32	Com52	Com72	Com92	Com112	📄 Com 132
📄 Com 13	Com33	Com53	Com78	Com93	📄 Com 113	📄 Com 133
📄 Com 14	Com34	Com54	Com74	Com94	📄 Com 114	📄 Com134
📄 Com 15	Com35	Com55	Com75	Com95	📄 Com 115	📄 Com 135
📄 Com 16	Com36	Com56	Com76	Com96	📄 Com 116	📄 Com 136
📄 Com 17	Com37	Com57	Com77	Com97	📄 Com117	📄 Com137
📄 Com 18	Com38	Com58	Com78	Com98	📄 Com 118	📄 Com 138
📄 Com 19	Com39	Com59	Com79	Com99	📄 Com 119	📄 Com 139
Com20	Com40	📄 Com60	Com80	📄 Com 100	📄 Com 120	📄 Com140 👻
•		11				Þ
OK	Cance		heck (Range)	1 🌲 t	o 256 🌲	
Colort A			ahaak (Panga)		256	
Select A	ii joelect r	Un	uneuk (hange)		200 💽	

## <u>4-1. 仮想 COM ポートの追加方法</u>

仮想 COM ポートの追加 / 削除設定ダイアログ (Com Ports) で追加したい "Com" 番号にチェックを 入れ、「OK」 ボタンを押します。

グレー表示されているものはパソコンが持つ実際の COM ポートなどで、COM ポートリダイレクター では利用できない COM ポートです(ご使用のパソコンにより異なります)。

※ SI-60X はシリアルが2ポートあり両方ご利用される場合 COM を2つ追加します。

※未使用の Com ポート(デバイスマネージャ画面でも表示なし)がグレー表示され設定出来ない 場合、Windows 内で既に設定(使われている)可能性があります。通常非接続のデバイスはデ バイスマネージャに表示されませんのでコマンドプロンプトにて以下のコマンドを入力すると

C:¥>set devmgr\_show\_nonpresent\_devices=1 C:¥>start devmgmt.msc

デバイスマネージャが特別なモードで起動しますので、メニューの[表示]-[非表示のデバイス の表示]をクリックすると、非接続の使用中ポートが表示されるようになります。必要に応じて削 除(右クリック→削除)することで利用する事ができます。

### 4-2. 仮想 COM ポートの削除方法

CPRで登録した COM ポートを削除する場合は、仮想 COM ポートの追加 / 削除設定ダイアログ (Com Ports) で削除したい "Com" 番号のチェックを外し、「OK」ボタンを押します。 (設定を変更中など赤く表示されている場合削除できないことがありますので、一旦設定を保存してから削除してください。)

# 第5章 本機と仮想 COM ポートの関連付け

追加した CPR の COM ポートと本機を接続できるように設定します。

1. 追加された仮想 COM ポートを選択します。

◆ CPR Manager 4.3.0.3								
File Com Port Device Tools Help								
🏷 Add/Remove 🛛 😭 Save 🖹 Refresh 🔎 Search For Devices 🤤 Exclude								
Com Ports 🛛 Hide 🖨 🤇	Com Port List							
All Com Ports (2)	Com Port	IP Address	TCP Port	Com Status	Netwo			
Com 3 - 4 Com 3 (Inaccessible) Com 4 (New)								
	·							
Device List Collapse 🛂								
IP Address # Ports TCP Po Product ID HW Address								
< <u> </u>								
Complete! Modified								

- 2.「Settings」タブ内のホストリストテーブルの「Service」の「Host」と「TCP Port」に本機の IP アドレスとポート番号を設定します。設定方法は本機に設定した IP アドレスとローカルポートを 手動で直接入力するか、もしくは「 P Search For Devices (Search For Devices)」アイコン (メニュー の [Device]-[Search])をクリックし検索して表示された「Devices List」に表示されている本機 の XPort、WiPort、WiPortNR、xPico をダブルクリックすると入力されます。
- 注意: SI-60Wi/SI-60P/SI-60FP では Channel2 のポートは使用できません。SI-60X は Channel1(RS-232C(1) 側) と Channel2(RS-232C(2) 側) をそれぞれの COM に設定する必 要があります。ダブルクリックなどで登録した場合 TCP Port を手動で直接入力し変更して ください。



Windows ロゴテストを受けていない為ハードウェアインストールダイアログが表示されることがあ りますが使用上問題ありませんので「続行」ボタンをクリックしてください。

# 第6章利用条件に合わせた仮想 COM ポートの設定

# 6-1. 仮想 COM ポートの条件設定

「CPR Manager」ウィンドウで選択した "Com" ポートの「Settings」タブにて各種の設定をすることが可能です。

お使いのシステムの仕様に応じて変更してください。

♦ CPR Manager 4.3.0.3								
File Com Port Device Tools Help								
≫ Add/Remove 🔄 Save 🗟 Refresh 🔑 Search For Devices 🤤 Exclude								
Com Ports Hide Distings Com 4 Tests								
Com 3 - 4     Window's Port Name:     Lantonix CPR Part (COM4)     Window's Devce Name:     VDevice(VprDevice4     Com Status: Closed     Window's Levce Name:     VDevice(VprDevice4     Network Status: Disconnected     Reset to Defaults     Cancel Edits								
Buffer Writes (Keep checked for better write performance)     Server Reconnect     No Het Close								
Listen Mode Normal - port closed after disconnect v TCP Port Add To Firewall								
TOP KeepAlive 7200000 😓 KeepAlive Time (msec) 1000 🚖 KeepAlive Interval (msec)								
RFC 2217 DTR (h): The DTR to DCD, DSR always active      (TruPort)								
Service Host 1 TCP Per at WARNING! If the Host is on the other side of a router or a. 1 192180.022 10001 at 10001 at 10001 at 1000 at 10000 at 1000 a								
2     Also, some legacy device servers respond on UDP port 4283. If       4     rou are unable to connect to a device servers respond on UDP port 4288. If       5     cause is the Firewall on this machine is blocking this port. Firewall is already.       6     block APC brit batton to add then the port has already.       7     block approximation.       8     Add Re Port.								
<pre></pre>								
Device List Collapse 🛂								
IP Address # Ports TCP Po., Product ID HW Address Network Interface Device Name								
192.168.0.22 2 10001 WiPort b/∉ W6 192.168.0.3								
TOP Part 2 10002								
4 III >>								

# 6-2. Settings タブの設定

以下にある「CPR 設定項目」表を参考に必要な個所を変更し、設定変更後は 「 Save (Save Settings)」をクリックし設定を保存します。

## <CPR 設定項目 >

項目	内容
Buffer Writes	チェックすると Com ポートを開き書き込みを開始した時、1 パケットに出来るだけ 多くの送受信用データをバッファに溜め込みます。
Server Recconect	チェックすると接続が中断した時、再接続を試みます。 ※この機能を使うときは、Timeout Reconnectを外してください。
No Net Close	チェックするとアプリケーションによって仮想 COM を閉じても、ネットワークは切断 されません。
Connection Timeout	次のデバイスサーバに接続までの、または接続中止までの時間(秒)を指定します。
Tieout Reconnect	チェックすると接続が中断したとき、接続の再確立を試み接続を確立するもしくは 再接続要求時間が「Reconnect Limit」の値になるまで、再接続要求を続けます。
Reconnect Limit	再確立を試みる時間を0~100秒で設定します。0をセットすると間断なく接続を 試みます。
Listen Mode	外部からの接続要求を受けることで接続を確立する listen モードになります。 Normal - port closed after disconnect: 一度、接続が中断されるとTCPポートはクローズされます。 Auto- back to listen mode after disconnect: 一度、接続が中断されるとTCPポートは listen 状態に戻ります。 (「第 7 章 Listen モード利用」参照)
TCP Port	listen モードで使用する TCP ポートを指定します。
Connection Timeout	ホストリスト上の次の XPort/WiPort/WiPortNR/xPico に接続を行うとき、待機する時間(秒)の設定を行います。
TCP KeepAlive	TCP 接続状態確認用のパケットを送信して接続状態のチェックを行います。
KeepAlive Time(msec)	接続状態を確認パケットを送信するための時間を記します。
KeepAlive interval (msec)	接続が失敗であることを確認すると、ここで指定した間隔で接続状態のチェックを 行います。5回チェックし、接続が確立されていない場合は TCP はソケットを閉じ ます。
Add Rx Port	UDP ポート 43283 がファイアーウォールに阻まれないように除外リストに加えます。
Add to Firewall	listen モードで使用するポートがファイアーウォールに阻まれないように除外リスト に加えます。
RFC2217 (TruPort)	<ul> <li>アプリケーションソフトの設定が本機 (XPort/WiPort/WiPortNR/xPico) 側に反映されます。また信号入力状態が分かります。</li> <li>・本機 (XPort/WiPortNR/xPico) のシリアルポート設定 (ボーレート、データ長、パリティ、ストップビット、RTS/CTS 制御)</li> <li>・ DCD とネットワーク間の DSR シリアルポート信号 注意:この機能は、SI-65/SI-65FAではご利用いただけません。また Lantronix 社製品のモデルやファームウェアバージョンによって正常に動作 しない場合がありますのでご注意ください。</li> <li>(「第8章 RFC2217利用」参照)</li> </ul>
DTR(In)	「Use RFC 2217」指定時、DTR、DCD、DSR の使用方法を指定します。 デフォルトは「Tie DTR to DCD, DSR always active」です。 本機の DTR I に相当するシリアル入力ピンの入力を変化させると、CPR の DCD(In) が変化します。DSR(In) は常時 Active I になります。 注意:この機能は、SI-65/SI-65A/SI-65FA ではご利用いただけません。また Lantronix 社製品のモデルやファームウェアバージョンによって正常に動作 しない場合がありますのでご注意ください。

# 第7章 Listen モードの利用

#### 7-1. Listen モードとは

Listen モードは CPR をインストールしたパソコン側をサーバ、本機をクライアントとして、本機が稼動す る前に予めパソコン側ソフトウェアを起動して COM ポートをオープンする事が出来ます。

#### 7-2. Listen モードの設定

Listen モードは CPR と本機の設定が必要になります。

く準備>

CPR をインストールしたパソコンの IP アドレスを確認し設定をメモしておきます。 (パソコンの IP アドレスはコマンドプロンプトから ipconfig コマンドなどでご確認ください)

< CPR 側の設定 >

Listen Mode」にチェックを入れ、「TCP Port」に CPR のポート番号を設定します。
 (⇒「6-2.Settings タブの設定」参照)

2. ファイアーウォールに遮断されないように「Add to Firewall」をクリックします。

3. 「 📊 Save (Save Settings)」をクリックし設定を保存します。

<本機の設定>

本機の設定を Web マネージャーで [Connection] の「Active Connect」を「Auto Start」に設定し、 「Remote Port」に CPR に設定したポート番号と「Remote Host」に CPR をインストールしたパソコ ンの IP アドレスを設定します。

<u>ش</u>	Connection Settings					
Network						
Server Serial Tunnel	Channel 1					
Hostlist	Connect Protocol					
Channel 1	Protocol: TCP V					
Connection	Connect Made					
Channel 2	Descrive Connections Active Connections					
Serial Settings	Passive connection. Active connection.					
Connection	Addept incoming. Tes • Addee Connect. None •					
Email Trigger 1	Required: Yes  No Start Character: 0x <sup>CD</sup> (in Hex)					
Trigger 2 Trigger 3	Password: Modern Mode: None					
WLAN	Modern Escape Sequence Pass  Yes  No Show IP Address After RING: Yes  No					
Configurable Pins	mougn.					
Apply Settings	Endpoint Configuration:					
	Local Port 10001 Auto increment for active connect					
Apply Defaults	Remote Port 0 Remote Host 0.0.0					
	Common Options: Telnet Com Port Disable  Contri Disable  Control Response: None  V					
	Terminal Name: Use OYes ONo LED: Blink V					
	Disconnect Mode					
	On Mdm_Ctrl_In Drop: O Yes  No Hard Disconnect: Yes O No					
	Check EOT(Ctrl-D): Yes No Inactivity Timeout : 0 (mins:secs)					
	OK					

[OK] ボタンをクリックし、「Apply Settings」で設定を書込みます。

< 動作の確認 >

- 1. 本機の電源が切れている状態で、仮想 COM ポートをオープンします。
- 2. 本機の電源を入れると自動接続が開始されます。
- 3. データ通信が正常に出来る事をご確認ください。

# <u>第8章 RFC2217の利用</u>

#### 8-1. RFC2217 とは

アプリケーションソフトから本機 (XPort、WiPort、WiPortNR、xPico)の通信条件設定や CTS/RTS などの制御および確認が可能になります。

RFC2217機能を有効にする場合、以下の様な注意点や制限事項が確認されていますので、 ご注意ください。

- 本機 (XPort または WiPort)のファームウェアバージョンが Ver6.5.0.7 以降が必要となります。
   CPR は Ver4.2 以降で対応しています。
- シリアル通信速度 460.8kbps、921.6kbps には非対応です。
   但し、XPort-05 搭載機種のファーム Ver6.10.0.1 より対応。
   (SI-60 は XPort およびファームに関係なく460.8kbps、921.6kbps には非対応です)
- 本機の XPort、WiPort、WiPortNR、xPico でサポートしていない通信速度などは利用 できません。
- SI-65/SI-65A/SI-65FA では回線監視機能が正常に動作しない事が考えられますので 使用しないでください。
- CPR Ver4.2.0.0 以前では RTS 出力の操作につれて CTS 入力が変化してしまうなどの 現象が発生します。
- SI-60WiのWiPortファームウェアVer6.6.0.0ではシリアルからの受信データがエコーバックされます。
- DTR(In) は XPort の場合、「Modem Control In」が設定できるのは CP2 のみになる為、 SI-60(DTE/DCE 切替が DTE) および SI-60F の場合、CP2 とつながっている本機の CS(5)を使う事になります。
- DTR(In) は WiPort の場合、「Modem Ctrl Channel1 In」が設定できるのは、SI-60Wi(DTE/DCE 切替が DTE のとき)の(6-20)とつながっている CP3 を使う事になりま す。
- DTR(In) は WiPortNR の場合、「Modem Ctrl Channel1 In」「Modem Ctrl Channel2 In」 が設定できるのは、SI-60X の RS-232C(1) 側 (6) とつながっている CP4 もしくは RS-232C(2) 側 (6) とつながっている CP6 を使う事になります。
- DTR(In) は xPico の場合、「Modem Ctrl Channel1 In」が設定できるのは、SI-60P (DTE/ DCE 切替が DTE のとき)の DR-ER(6-20)、SI-60FP の DR-ER(6-4)とつながってい る CP2 を使う事になります。

<本機の設定>

 本機の設定をWeb マネージャで [Connection] の「Common Option」の「Telnet Com PortCntrl」 を「Enable」に設定し[OK] ボタンをクリック後、「Apply Settings」で設定を書込みます。

	Connection Settings					
Network						
Server	Channel 1					
Serial Tunnel	Connect Brotocol					
Hostlist	Protect TOD -					
Channel 1	Protocol: I'GP +					
Senal Settings						
Fmail	Connect Mode					
Trigger 1	Passive Connection:	Active Connection:				
Trigger 2	Accept Incoming: Yes •	Active Connect: None				
Trigger 3	Password O Yes @ No	Start Character: p.00 as Used				
Configurable Pins	Required: Tes Wildo	atan character. (II (III Hell)				
Apply Settings	Password:	Modern Mode: None 💌				
	Modern Escape Sequence Pass Through:      Yes      No	Show IP Address After RING: 💩 Yes 🔘 No				
Apply Defaults						
	Endpoint Configuration:					
	Local Port 10001	Auto increment for active connect.				
	Local Force Tooor	Auto incremention acave connect				
	Remote Port: 0	Remote Host 0.0.0.0				
	Telnet Com Port Cntrit Enable •	Connect Response: None 💌				
	Terminal Name: Us Hostlis	e ⊙Yes ® No LED: Blink ▼				
	Disconnect Mode					
	On Mdm_Ctrl_In Drop: © Yes @ No H	ard Disconnect: @ Yes 💿 No				
	Check EOT(Ctrl-D): O Yes @ No In	activity Timeout: 0 ; 0 (mins : secs)				
		OK				

2.CTS/RTS 制御するには [Configurable Pin]の設定をモデル毎に設定し [OK] ボタンをクリック後、 「Apply Settings」で設定を書込みます。

	Configurable Pin Settings				
Network					
Server					
Serial Tunnel	CP	Function		Direction	Active Level
Hostlist Channel 1	1	HW Flow Control Out	•	Input Output	🖲 Low 🔘 High
Serial Settings	2	General Purpose I/O	•	Input Output	🖲 Low 🔘 High
Email	3	HW Flow Control In	-	Input Output	Low O High
Trigger 1		T	_		
Trigger 2					
Trigger 3			_		
Configurable Pins				OK	
Apply Settings					
Apply Defaults					

#### 注意:XPort のファーム Ver6.8.0.2 の Web マネージャ Ver1.9.0.1 以降では XPort の 3 つの CP を CP1 ~ CP3 と表示しており、それ以前のバージョンでは 3 つの CP を CP0 ~ CP2 と表示 しています。

SI-60(DTE)

本機	CP	Function	Direction	Active Level
RTS(CP0)	1	HW Flow Control Out	-	Low
DTR(CP1)	2	General Purpose I/O	Input	Low
CTS(CP2)	3	HW Flow Control In	-	Low

#### SI-60F

本機	CP	Function	Direction	Active Level	
RTS(CP0)	1	HW Flow Control Out	-	Low	
DTR(CP1)	2	General Purpose I/O	Input	Low	
CTS(CP2)	3	HW Flow Control In	-	Low	

■ SI-60Wi/SI-60X/SI-60P/SI-60FP の場合は CP の設定はありません。

< CPR 側の設定 >

- ・「RFC2217(TruPort)」にチェックを入れ、「DTR(In)」を「Do not tie DTR to anyother signal」 などに設定します。
- ・「(Save Settings)」をクリックし設定を保存します。
- <動作確認>
  - 1. 登録および設定した "Com" の「ComX Tests」 タブを選択します。

CPR Manager 4.3.0	.3								
File Com Port	Device Too	ls Help							
🏷 Add/Remove 🛛 🖓	Save 💽 Rel	fresh 🔎	Search For	Devices	🖨 Ex	clude			
Com Ports Hide 😑 💈	Gettings Com	4 Tests							
🚞 All Com Ports (2)	Open/Close								
🖻 🧰 Com 3 - 4									
Com 3 (ina	Help	Open	Con	n Status:	Closed				
			Net	work Status:	Discon	nected			
	Serial Port Se	ettings		RS232					
	Baud Rate:	9600	-		DCD	CTS	DSR	( ( RTS	DTR
	Data:	8 bits	•	High	0	0	0	0	0
	Parity:	None	-	Low	$\bigcirc$	$\bigcirc$	$\odot$	$\bigcirc$	0
	Stop:	1 bit	•	Rx Data	0			RTS Hi	DTR Hi
	Flow Control:	None	•	Rx EOF	0			RTS Lo	
	NOTE: On support seri- be affect changes and For examp CPR ports t	y Com Port al port setti ed by serial RTS/DTR ble, real por hat have R	s that ings will port changes. ts and FC2217						
Device List									Collapse
IP Address	# Ports T	CP Po P	roduct			ID	HW A	ddress	Network Int

2.Open ボタンをクリックし、本機との接続を確立します。 (本機との関連付けは「5章本機と仮想 COM ポートの関連付け」参照)

3.CPRのRTSを変化させた際に本機のRTSが変化する事と本機CTS側を変化させた時CPRのCTSも変化する事を確認します。

# <u>第9章 CPR のバージョンについて</u>

最新の CPR バージョンの他に付属 CD-ROM には以下の様な CPR が付属しています。 (ご購入された時期によっては付属バージョンなどが異なる場合があります) 初めてインストールされる場合は最新のものをご利用いただき、最新バージョンで非対応の OS な どで使われる場合はシステム環境に応じてご利用ください。

CPR Ver	実行時に必要な .NET Framework	対応 OS
3.1.0.1	不要	NT/2000/XP
4.2.0.0	Ver2.0	2000/2000 Server/XP/2003 Server/Vista

利用の際は以下の点にご注意ください。

- ・CPR Ver3.1.0.1 では WiPortNR/XPort/WiPort/xPico のファームウェア Ver6.5.0.7 以降の新機能 (RFC2217 など)は使えません。
- ・CPR Ver4.1.x.x 以降では Visual Basic6 およびそれ以前の MSCOMM に問題があり CPR とは通信出来ません。
- ・RFC2217 機能を利用する時を除き本機の RTS/CTS フロー制御は接続されたシリアル機器間でのみ自動的に行われます。(アプリケーション側から RTS/CTS の制御、監視はできません)(RFC2217 機能については「第8章 RFC2217 の利用」をご覧ください。)
- CPR Ver4.1.x.x 以降の操作手順はほぼ同じですが、Ver3.1.0.1 などは操作手順が異なります。
   Ver3.1.0.1 のインストールと設定手順については「¥lantronix¥ComPortRedirector¥Ver3.1.0.1」フォルダーの「ComPortRedirector\_V3101.pdf」をご覧ください。
- CPR Ver4.1.x.x 以降で以前からご利用されている場合 XPort-05を「Search For Devices」にて 検索すると「Unknown」と表示される事があります。
   この場合 [Tool]-[Product InfomationBase]、または Deviceinstaller の [ ツール ]-[ 製品情報ヘース] から [Get Latest PIB File Online] にてダウンロードし PIB ファイルを更新してください。

# 株式会社 ラインアイ

〒 601-8468 京都市南区唐橋西平垣町 39-1 丸福ビル 4 F Tel:075(693)0161 Fax:075(693)0163

> URL http://www.lineeye.co.jp Email info@lineeye.co.jp

> > M-10116WICPRJ/SI